

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人目標とホームの理念を踏まえ、ご利用者にとっての今とはどういう時なのかを常に考え、支援に繋げる検討をしている。	法人とホームの理念をユニット玄関に掲げ来訪者に分かり易く示している。利用開始時には本人や家族に「今を大切にさせていただく」旨を伝えている。職員会議や申し送りの中で必要に応じて理念に触れている。職員は理念を理解しておりその主旨を伝えることができ、更に具体化して自らのサービスの姿勢を語る事ができる。理念からそれたような言動は殆ど見られないが、あれば職員間でも注意し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外部からの訪問回数も増えてきており、外来者のいつ来ても大丈夫だという事が定着してきている。	自治会には法人として協力費を納めている。村民でもある職員が各自治会、子供会等で地域活動に参加し協力している。折り紙、フルートなどの楽器演奏、舞踊等のボランティアが継続して訪問している。小学校の児童との交流(音楽会や学習発表会への招待)や中学生の職場体験の受け入れも継続している。野菜や特産のリンゴの差し入れ、梨狩りへの招待、地区住民の訪問もある。住宅地から離れた場所に建つホームではあるが一度訪問したボランティア、交流した方々が継続して来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に活動の様子や職員研修でケアの方法を改善している点など報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より、行政の協力を得て、土曜日の9時から開催したが、ご家族参加の増加へは結びつかなかったが、行政、区長、民生委員の方々には取り組みなどにご理解頂く事ができた。	家族代表、区長、民生児童委員会協議会長、地域包括支援センター職員、村担当課長補佐・主査などが参加し奇数月の土曜日に開催している。利用者状況や行事等を報告し、参加者から意見や助言、情報を頂いている。3施設合同の避難訓練には家族や村担当者も立会っている。会議での意見や情報がホームの運営やサービスに活かされた事例としては非常口の段差の件、保健指導員の会議への参加のこと、食育に関する事などがあつた。会議で話し合われた内容は職員会議でも報告されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	村の福祉課や包括は非常に協力的であり、ホームへ来訪してご利用者と直接話しをしたり相談にも親身になってくれている。	村担当課長補佐、主査、地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員でありホームの情報は会議の折に報告し助言等を頂いている。防災訓練にも立会いに見えている。ホームの空き情報について関係市町村の地域包括支援センターからの問い合わせもあり応じている。介護認定の訪問調査は各市町村担当者がホームに来訪し行われ、同席する家族もいる。区分変更が必要な場合には家族と相談し家族が申請している。隣接3市町村介護施設連絡会議には施設長が出席し必要な情報が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束することによるご利用者への負担を常に職員間で考えている。また、やむを得ず使用する場合は、ご家族、ご本人に了解をいただき、なるべく早く外す事ができるように検討していく。	玄関は自動ドアであり誰もが自由に入出りできる。利用間もない利用者が出掛ける時は職員が付き添い敷地内を歩いている。利用者が何時も自由に行動できるよう気持ちよく過せる環境づくりに努めている。センサーマットは現在夜間のみ使用しているが、長期間使い続けるのではなく外す検討もしていく方向である。転倒防止委員会があり身体拘束のないケアにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな不明外傷であっても、ヒヤリハットや事故報告書にし、委員会や担当が中心となり対策を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会に参加した職員が会議の際に報告し、研修会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を一緒に読み合わせしており、疑問点や不明点はその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時に時間があれば面談の時間を作っていただき報告し、話し合いをしている。緊急でなければ、メールでお知らせしている家族もある。	利用者のコミュニケーション能力は低下してきているが職員の言葉掛けの工夫(二者択一など)で要望などを把握している。家族の来訪は3日に一回、週一回、月2~3回とそれぞれの都合に合わせている。家族会は年2回開催している。敬老会や利用者本人の誕生日、善光寺参りなど、行事がある時は家族にも声をかけ参加を呼びかけている。家族の意見・要望は来訪時や家族会などで伺っている。ホーム便りは2ヶ月毎に発行し、暮らしの様子を伝えている。ご家族が来訪時に見れるようにと個別のアルバムも作成中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を実施し、ご利用者の支援方法やご家族からの話し、委員会、計画作成者報告と話し合いの時間を設けている。	職員会議は毎月16日の16時から全員参加で行われている。勤務等で欠席した場合には議事録で会議内容を確認している。法人全体の委員会(食事・排泄・入浴・転倒防止・感染症・行事の6委員会)があり各委員会で話し合った結果は各委員が持ち帰り全職員に報告している。職員の意見は各委員会を通して運営に反映されることが多い。管理者はフロアに出ているので職員と話をすることも多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働時間や環境などに配慮し、都度面談で対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には育成できる職員をトレーナーにつけ、夜勤や準夜、日勤の業務について学べる体制を整えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野圏域グループネットに参加し情報交換をしたり、リーダー研修参加者が他施設で実習をした報告を会議の場で発表した。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームでの見学で雰囲気を感じていただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に来訪していただき、その際にゆっくりお話を伺えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約の際に、状況が変わり、他サービスを利用してもらう事になろうとも、必ず、最後まで相談に乗る旨は説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に無理のないよう配慮しながら、生活のあらゆる場面で協力してもらえよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の本音をはなしてもらえ関係づくりを大切にしている。来訪時には、ご本人と家族の時間を楽しく過ごしていただける配慮をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が途切れる事のないよう、来訪時には暖かく迎え入れる支援を行い、継続するようにしている。	昔の職場の友人や近所の方も高齢のため以前より回数は減ってきているが継続して見えている。馴染みの理髪店が来訪し散髪している方もいる。雪が降る前に近所の人に会いたいと職員と出かけた利用者もいる。お正月やお盆、お彼岸に一時帰宅したり、お墓参りに出掛け親族と食事を共にする方もいる。ホームで生活することで本人も穏やかになり、家族が優しく接するようになった事例もあるという。携帯電話を持つ利用者は家族からかかってくる電話は取れるが、かける時は職員の手を借り話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両棟の関係性や絆を大切に支援している。家族来訪時に仲の良いご利用者が一緒に御茶を飲んだり楽しい時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の施設にご家族の面会に同行したり、退居されたご家族が差し入れに来訪した際に一緒に御茶を飲みながら思いで話しにはなを咲かせている事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のご利用者と向き合い、その時に発した言葉や表情から思いを汲み取り記録にしている。またその時間を大切にしている。	職員は入浴や排泄支援時、居室の掃除の時、夜勤時など、利用者と一対一になる時間を大切に本人の思いや希望の把握に努めている。利用者が訴えていることを大切に受け止めており、日々の会話の中からも本人の希望や意向を聞きだすようにしている。法人理念の「今、目の前にいる利用者が何をして欲しいかを考えて行動する」ことを職員は常に意識し行動している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から聞いた話しやご家族、なじみの方からの情報は共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おおよそ1日の流れはあまり変えないようにする中で、その方に沿ったケアを心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの変更は計画作成者が中心となり、担当からの情報や日々のケース記録から検討している。必要に応じ、ひもときやセンター方式を使っている。	利用者3名を二人の職員が担当し、包括的自立支援プログラムから立案し、計画作成担当者が本人や家族、職員等と話し合い介護計画を完成させている。毎月、長期・短期目標について評価・調整し、3ヶ月毎に総合評価(支援内容・計画に対する評価・達成度・今後の方向性)を行い、意向の変更や状況変化があればセンター方式やひもときシートなども活用し現状に即したものに修正している。介護計画の確認は本人でもかまわないという家族もいるが、その内容について大半の家族に説明話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをカーデックスにはさみ、プランに沿ったケアや記録をしている。日々のケアもプランに沿って行えるようになってきている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の今訴えている事に対応できるように、職員間の連携を大切にしながら一緒に楽しむ工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	独居のご利用者への留守宅確認の支援や他事業所と協力して自宅へいき、お仏壇のお参りをしてきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調変化の際はご家族へ連絡し様子を伝え、医療へはFAXで事前に情報を送り、受診の際のご家族の負担を軽減するようにした。	利用後もかかりつけ医との関係は継続している。現在3名のかかりつけ医が週一回または月一回(2医師)往診している。緊急時は協力医療機関である隣接の市・町の病院を希望する家族が多い。夜間の緊急時には同じ法人の病院が対応できるようになっている。利用者に変化や異常等があった場合は隣接老健の看護師に連絡し相談している。定期受診の付き添いは家族に依頼し、薬なども届けていただいている。本人の状況は受診に先立ち病状報告書を受診先に送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の担当看護師に情報提供し、主治医から指導をもらうようにしている。怪我などの応急処置が必要な際は隣接の看護師に依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時は職員が付き添い状況報告を迅速に行えるようにしている。その後はご家族、地域連携室と連絡を密にし情報提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の意志を尊重し、ホームでの看取りが可能かどうか十分に話し合いを行っている。他のご家族からもホームで看取りを希望されている方がいる。	看取りに関する指針が作成されている。本人の状態変化に伴い家族が医師からの説明を受けた後、「医療についての事前調査書及び同意書」を取り交わしている。看取り介護計画が作成されそれに沿った支援を受けながら最期を迎えられた利用者は2名いる。急変し救急車で医療機関に移られて最期を迎えた方、療養中の方もいる。最期まで利用できるホームではあるが住み替えができるという安心を確保するため特養にも併せて申し込まれている家族もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのご家族からは意向を聞いており、主治医との連携をとっている。職員の手順書を作成しており、新人職員も戸惑う事のないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署、福祉課立ち合いのもと指導を受けている。また、今年度初めて3施設合同の避難訓練を実施した。	年2回春と秋に消防署の指導の下、村担当職員も立ち合い、防災訓練を実施している。春はホーム単独で避難訓練を行い、利用者も職員の誘導を受けながら避難している。秋は今回始めて3施設(特養と老健施設)合同で行われた。ホームの利用者は身体機能低下のため誘導での避難が難しく、各ユニットの避難口(段差)利用が難しいことなどが今後の課題となっている。地域との防災協定も結ばれている。スプリンクラー、自動火災通報装置など、防災設備を完備し、飲料水や食品等の備蓄も法人として準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守る事、尊敬の念を忘れない支援を心掛けている。介助の際は必ず声を掛け、納得いただいてからケアにはいるようにしている。	倫理綱領を基に新人教育が行われており、また、リーダー研修等でも理解を深めている。全職員、福祉事業に係わる人として守るべき基本を理解し、日々、利用者の尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。利用者は苗字または名前に「さん」を付けて呼ばれており、職員も人生の先輩として敬っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの場面であればご利用者が本心を話してくれるのか考えたうえで、ご本人からの言葉は記録に残し、後日ご家族と相談している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時やお茶の際に話しのできる雰囲気づくりを大切にしている。ご本人から希望が聞かれれば可能である限り実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい装いと、朝からさわやかに過ごしていただく為のケアと継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、配膳や後片付けを手伝っていただいている。皆で準備し、おいしく、楽しく食事が開始できるように工夫している。	三食とも隣接施設の厨房から届いている。「美味しいね」、「この魚は何?美味しい」、「今日の御飯は硬い。良く噛まないとお腹こわすよ」と利用者間で話したり、笑ったりしながら食事をしている。職員は献立を説明したり、食べ終わった利用者に薬を配り、お茶を勧めている。食事は利用者のペースでゆっくりと進み、食後のデザート(頂き物のリンゴを利用者が刻んだフルーツヨーグルト)が配られた。小一時間ほど掛けての昼食であった。その後、テレビの連続ドラマを見ながら利用者の手は空になった食器を重ね、運び易いように片付けていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おおよその食事量を把握し、低下している際はチェック表で管理し、医療へ繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状況に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて各利用者の排泄パターンに合わせた支援をしている。夜間やむを得ず紙オムツを使用している方も昼間は布パンツで対応している。	利用者一人ひとりの排泄状況を職員は共有しており、時間や本人の表情、動き等でトイレ誘導を行っている。常に利用者が何を求めているのか、利用者を見ながらの支援が行われている。居室にポータブルトイレを置いている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中の活動を促したり、水分摂取などでなるべく自然排便が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日の中で入りたい時間を選んで入浴していただいている。本人希望で当日入れない時は、必ず翌日に声を掛けている。	お風呂は無色無臭の温泉が引かれている。菖蒲湯や柚子湯も行っている。希望に合わせて週2回以上入浴しているが、その日の気分で拒む方もいるので、無理強いせず翌日に声を掛けるようにしている。利用者全員が何らかの支援が必要であり、身体状況で二人介助が必要な方もいる。入浴用の備品検討が行われ、リフト用デモ機を試みる予定もある。入浴で職員と二人になった時、利用者は本音をふと洩らすことがあり大切な機会としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った環境を昼夜問わず提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数の職員での確認を行い、飲み忘れ、誤薬防止の為、本人確認を声に出して行うよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた気分転換や役割を考え行っている。毎晩、晩酌を楽しみにしている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度2度目の善光寺外出を実施。ご家族参加も1名増え、16名のご利用者が参加できた。3日間をかけ、ゆっくり名所を散策できた。	日常的には車椅子の利用者も一緒に隣接地にあるチャオの森、ホームと同じ敷地内にある老健や特養施設のイベントを見に出かけている。外出行事として四季折々、花見や紅葉狩り、善光寺参り、足湯などに出掛けている。他施設(村内の宅老所)での流しそうめんに誘われたり、梨狩りに招待され梨畑で園主のアコーディオン演奏を聞かせていただく等、様々な場所へ出かけ潤いある生活を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される際は自分の財布から支払をしてもらっている。必要な物はおこづかいから購入できるよう家族の理解をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の子供や親戚に電話を入れ、近況を報告している。本年度は家族だけでなく、親戚や友人にも年賀状を送付する予定でいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外には季節を感じる工夫とお天気の良い日は散歩や外気浴でくつろげる時間を提供している。	左右対称の建物で事務所を挟み各ユニットの玄関があり、正面には法人とホームの理念が掲げられ、壁には職員の顔写真が貼られている。食堂にはクリスマスツリーが飾られ、壁にはイベントや外出時の写真も飾られている。利用者は連続ドラマを見たり、カレンダー作り、テレビ体操、レクリエーション等を楽しみながら多くの時間を食堂で過ごしている。中庭に降る雪が良く見えるので「大きい雪だ」、「積もるよ。これは」と昼食時の利用者の話題になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には思い出の写真を掲示し、他利用者が居室に訪室した際も楽しく過ごしていただけの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族来訪時には楽しい時間を過ごしてもらえよう、個人用にお茶道具を用意したり、ご自分の使いたいようにできる環境を整えている。	「ここはいいよ。チョッと狭いが自分の部屋があるから。自分の部屋では好きな風にしていただけるからね」と声を掛けてくれた利用者がいた。壁一面に家族が作った来年のカレンダーや写真、折り紙作品、可愛いモデルの広告等が所狭しと貼られている。利用開始時に家族は本人が大切にしていた物、長年愛用した物などを持ち込んでいる。利用者は自分の居場所、お気に入りの場所で快適に、安心して過ごしている。職員が毎日、掃除、換気、消毒(感染予防)などを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	備品置き場は環境を整え、誰でもわかる事といつでも必要な際は持っていけるように設置してある。		